令和２年２月３日発行

有害プランクトン情報　（令和元年度 － No. 10）

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所・生産技術研究室
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては，魚類や二枚貝などに影響を与えるので，毎月１回有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

○　調査日　沖合　　１月　第１回　内湾(8 地点)　1/14,15　内房（7 地点）　1/15
　　１月　第２回　内湾（8 地点）　1/23　内房（7 地点）　1/23,24
　　貝類漁場内　　九十九里 1/14,27

【有害プランクトンの出現状況】

○　シャットネラ属，シュードシャットネラ属，ヘテロシグマ属，カレニア属は確認されませんでした。
○　赤潮（透明度 1.5 m 以下，pH8.5 以上，酸素飽和度 150 %以上）は確認されませんでした。
　※　シャットネラ属は 1 細胞/mL，シュードシャットネラ属は 100 細胞/mL，ヘテロシグマ属は 1,000 細胞/mL，カレニア属は 100 細胞/mL 以上で注意報を発出します。

【貝毒プランクトンの出現状況 】

○　麻痺性貝毒原因プランクトンは確認されませんでした。
○　下痢性貝毒原因プランクトンの最高細胞密度は，ディノフィシス　カウダータが 1/14 にアクア北で 0.15 細胞/mL でした。他種はディノフィシス　アキュミナータが 1/14 に船橋及び盤洲南，1/23 に千葉灯標でそれぞれ 0.05 細胞/mL，ディノフィシス　ロツンダータが 1/14 に千葉灯標及び盤洲北，1/23 に富津で 0.05 細胞/mL でした。なおディノフィシス　アキュミナータは 10/2 に千葉灯標で 20.55 細胞/mL まで増加しましたが，被害情報はありませんでした。

（貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載）

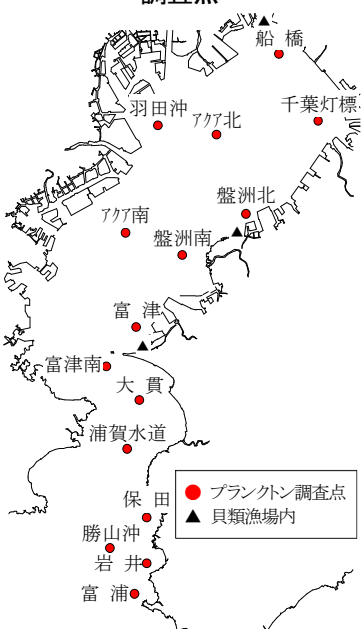
○　各海域で見られたプランクトンの優占種

1/14,15	内湾	渦鞭毛藻	ケラチウム　フルカ（図 1）
		珪藻	キートセロス属，スケレトネマ属，コシノディスクス属（図 2）
1/15	内房	珪藻	キートセロス属，スケレトネマ属，ダクチリオソレン属
1/23	内湾	珪藻	スケレトネマ属
1/23,24	内房	珪藻	スケレトネマ属，キートセロス属

図 1　ケラチウム　フルカ
（1/14 盤洲北）

図 2　コシノディスクス属
（1/14 盤洲北）

調査点



連絡先 ： 千葉県水産総合研究センター　東京湾漁業研究所
〒293-0042　富津市小久保 3091　　TEL 0439-65-3071　　E-mail　futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp